

一利倍役之事

一宿次之諸役之事附人足之事

右三ヶ條之役御細工之奉公相勤之間一切被成御赦免之由被仰出者也仍如件

天正八年庚辰八月十六日

鈞閑齋奉之

吉河彦太郎

鈴木清三郎

同與治郎

長坂十左衛門尉

甲州秤子之事如前候不可有相違者也依如件

天正十一年十一月廿六日御朱印

榊原小兵衛

神谷彌五助奉之

守隨彦太郎殿

分國中守隨秤黃金可令商買若或用私之秤子或於拵置輩者可被處罪科者也仍如件

天正十一年十月五日

榊原小右兵衛尉奉之

守隨彦太郎殿

〔三河後風土記二十八〕三浦三崎番附守隨町年寄之事

同年○天正十八年九月十二日○中其頃甲州にて秤商賣せし守隨兵三郎といへる者關東御入國と聞

早速甲州より江戸に來り多門傳八郎にゆかりあれば傳八郎を頼み井伊直政へ願ひ關入州權

衡を掌らん事を申出る神君彼はるく甲州より早速參たるを御稱美にて直に願の通御免有

て御朱章をぞ下されける